

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

ワークショップ3	
企画名	今後の病院総合医が地域で生き残るための変化とは
日時	2017年5月13日(土) 8:45～10:15
会場	第5会場 (サンポートホール高松 ホール棟 7F 第1リハーサル室)
企画責任者	川島 篤志(市立福知山市民病院 総合内科)
定員	96名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b></p> <p>当学会では病院総合医委員会を中心に、過去の学術集会やセミナーにて(2010年～2016年)、下記のテーマで議論を継続してきている:「あるべき病院総合医像を求めて」「病院総合医として期待される医師像」「ホスピタリストの紹介」「小病院の病院総合医の役割を考える」「病院総合医は地域医療をどう支えるか」「病院総合医セミナーin 東京」「病院総合医関連の認定医/専門医養成プログラムを検討する」「病院における総合診療科の立ち上げとその維持・発展について」「病院総合医体制の運営マネジメント・スキル」: 多くのプロダクトは、当委員会 HP より閲覧可能である: <a href="http://pc-hospitalist.jimdo.com/">http://pc-hospitalist.jimdo.com/</a></p> <p>2017年の学術大会においても、病院総合医に関連する議論が、様々なテーマで交わされることが想定される。そのなかで、病院における総合医と地域との関連を意識するテーマを委員会企画として取り上げた。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>2018年は医療・介護報酬同時改定、第7次医療計画、新専門医制度開始と医療環境が激変する。各医療機関も生き残りをかけ病院機能を変化させ、地域包括ケアシステムの枠組みにおける地域の病院総合医としての役割が求められる。それは超高齢社会における疾病構造への対応だけでなく、社会・生活背景を見据えたプライマリ・ケア理論に基づく高いレベルの診療であり、共通言語が通じる病院外の医師との協働に他ならない。地域別(都市部、地方)・病院規模別(大病院、中小病院)・対象疾病特性によっても、病院総合医の診療スタイルに変化が生じていくはずである。既に一病院のみで完結する医療は終焉を迎えており、今後は病院外の医療・介護・福祉のステークホルダーとの適切な連携が、良質な医療につながると考える。当WSでは、様々な地域における病院総合医がどのような役割・機能を担うべく変化するのか、連携をキーワードに存在価値を考えていきたい。</p>	